

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-131	12-073	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Moderate alcohol intake during pregnancy and risk of fetal death 妊娠中の中程度の飲酒と胎児死亡のリスク		
<b>執筆者</b>		
Andersen AM, Andersen PK, Olsen J, Grønbaek M, Strandberg-Larsen K.		
<b>掲載誌</b>		
Int J Epidemiol. 2012 Apr;41(2):405-13.		
<b>キーワード</b>		
胎児死亡、飲酒、アルコール、妊娠、自然中絶、流産、死産		
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b></p> <p>妊娠中の飲酒に関する「安全な」レベルについて論争が続いており、Danish pregnancy 大規模コホート研究における妊婦におけるアルコール消費をもとに胎児死亡(自然中絶と死産)に対するリスクを評価することが本研究の目的である。</p> <p><b>方法：</b></p> <p>Danish National Birth コホート研究に参加した計 92,719 名を対象とした。被験者は妊娠トリメスター(妊娠期間の 1/3)における生活習慣に関する情報、とりわけ妊娠中の週平均アルコール消費、喫煙、コーヒー摂取、職歴、妊娠歴についてコンピュータ支援型電話聞き取り調査を介して回答した。市民登録システム(Civil Registration System)と National Discharge Registry を介して妊娠結果(自然中絶と死産、生児出生、その他)と妊娠終了時の在胎期間に関する情報を入手し、これらの照合を行った。被験者として採用されたときの在胎期間および時間依存の共変数(妊娠年齢、経産/未経産、自然中絶の数、妊娠中の喫煙、1 週間あたりのアルコール消費の妊娠前との変化、妊娠中のコーヒーの消費、妊婦の職業)を考慮に入れ、Cox 回帰モデルを用いたデータ分析を行った。</p> <p><b>結果：</b></p> <p>被験者の 55.4%が妊娠中の飲酒を慎んでおり、わずか 2.2%のみが週 4 回以上飲酒を行うと回答した。調整後の第 1 トリメスターにおける胎児死亡のハザード比は週 2-3 回の飲酒を行うと回答した女性では 1.66 (95%信頼幅 1.43-1.92)であり、4 回以上と回答した女性では 2.82 (95%信頼幅 2.27-3.49)であった。一方で、妊娠第 13-16 週における胎児死亡のハザード比は週 2-3 回の飲酒を行うと回答した女性では 1.57 (95% 信頼幅 1.30-1.90)であり、4 回以上と回答した女性では 1.73 (95%信頼幅 1.24-2.41)であった。妊娠第 16 週以降における胎児死亡のリスクは増加しないことが分かった。</p> <p><b>結論：</b></p> <p>妊娠初期における飲酒は少量であっても自然中絶のリスクを上昇させる。本研究の結果から、胎児は妊娠初期におけるアルコールの曝露に影響を受けやすいことが示された。したがって妊娠 4 ヶ月まではアルコール消費を控えることが重要である。</p>		